

Wintest Corp.

ウインテスト株式会社

会社説明会

(抜粋編集資料)

ご紹介内容

- 第15期の経営結果について
- 第15期末会社概要
- ウィンテストの沿革
- 第15期決算概要 (BS, PLなど)
- 第16期業績予想
- 第16期市場見通し、営業計画

第15期の経営結果について

結果

純損失5億4千6百万円、3期連続赤字決算

原因

検査対象製品を広げるためにオプション開発の拡大
既存大手顧客の製造縮小により、大幅な受注減となった。

対策

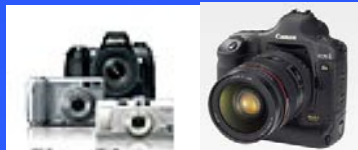
新規顧客ニーズを掘り起こすオプション開発と営業を一体化した
プロジェクトチーム制にして、受注増、開発のスピードアップを図ります。

第15期末の会社概要

☆概要

資本金:	9億9千7百万円(+4億円)
発行済株式数:	49,274株(+21,578株)
従業員:	28名(14期末より6名減少)
取締役:	4名、監査役3名 (平成20年7月 現在)
所在地:	〒220-0004 神奈川県横浜市西区北幸1-11-15
URL:	http://www.wintest.co.jp/

ウインテストの検査装置が使われている最終商品



デジタルカメラ、一眼レフカメラ



リアプロTV、プロジェクター



携帯電話

ウインテストの沿革

- 93/8 ウインテスト(有) 資本金300万円で横浜市中区弁天通に設立
代表取締役、奈良彰治
- 94/12 WTS-101A アモルファスTFT用アレイ自動検査装置を開発、販売開始。
- 95/6 横浜市中区花咲町に本店移転。
低温ポリシリコンTFTアレイ検査用WTS-103C CCD/LCD自動検査装置を開発
- 95/7 株式会社に組織変更。(資本金 1,000 万円)
- 96/7 低温ポリシリコン、LCOSでは、業界初のアレイ検査装置を出荷
- 98/3 横浜市中区曙町に本店移転。 低温、高温ポリシリコン、CCD用で売上高が約4倍
- 98/9 資本金を4,000万円に増資
- 00/7 有機ELディスプレイの評価装置及び評価方法、その他の特許申請開始
- 00/11 資本金を2億3500万円に増資(第三者割当増資)
- 01/10 有機EL専用アレイ検査装置の出荷開始(業界初)
- 02/3 海外出荷開始、低温ポリシリコン型液晶向け顧客出荷開始
- 03/9 東証マザーズに株式公開
WTS-311 CCD/CIS/LCD/OLED 検査装置開発、販売開始
- 03-04 有機ELディスプレイ、その他ディスプレイの基本特許取得が継続
- 04/4 韓国FROM30社と韓国国内における販売代理店契約を締結
- 05/9 WTS-700 ローエンド・ミックスDIC検査装置開発、販売開始
ミナトエレクトロニクス(株)の株式11.27%を取得し、資本業務提携
- 06/7 有機ELディスプレイのアレイ検査装置を韓国向けに出荷
- 06/12 WTS-383 CMOS イメージセンサー 8-32個同時測定検査装置開発
- 06/12 WTS-347 ローコストCMOSイメージセンサー 1-8個同時測定、評価検査装置開発
- 08/4 (株)タカトリに第三者割当て増資、資本業務提携

第15期 決算概要

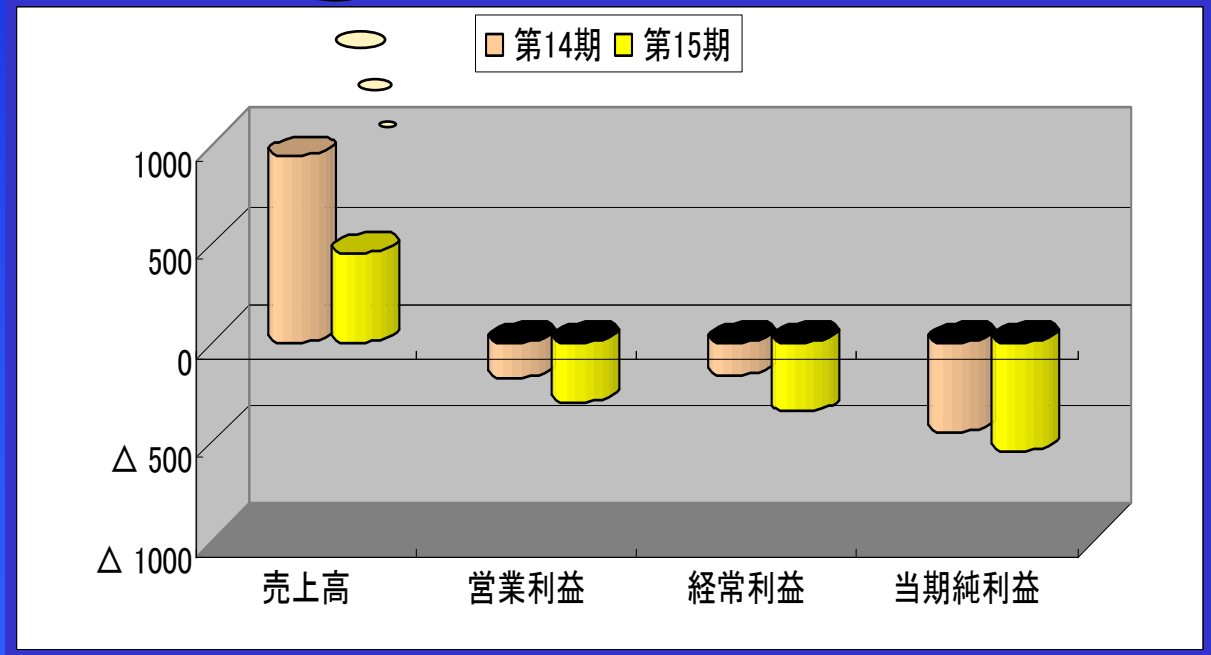
(2007年8月1日～2008年7月31日)

第15期損益計算書概要(P/L)

単位:百万円

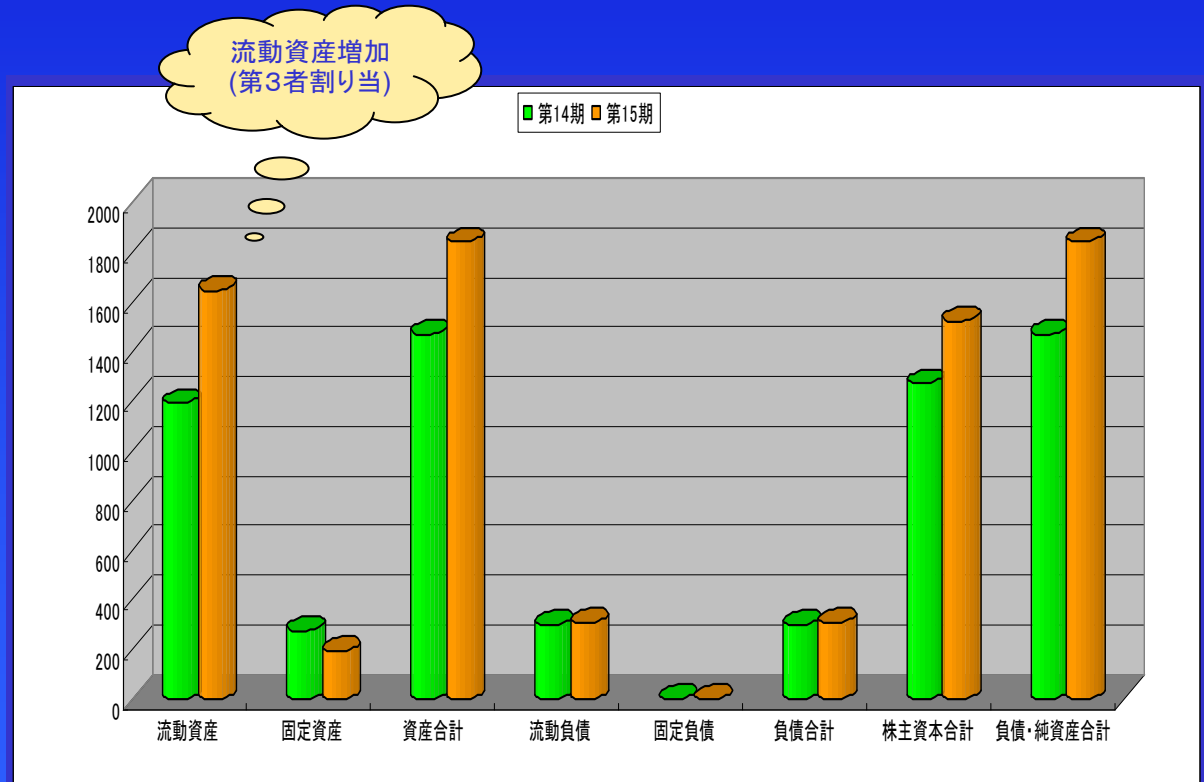
	第14期	第15期	増減率
売上高	941	452	-51.9%
営業利益	△ 183	△ 303	—
経常利益	△ 162	△ 350	—
当期純利益	△ 454	△ 546	—

売上半減



第15期貸借対照表概要(B/S)

	第14期	第15期	増減率
流動資産	1194	1647	37.9%
固定資産	277	195	-29.6%
資産合計	1472	1843	25.2%
流動負債	301	309	2.7%
固定負債	0	0	
負債合計	301	309	2.7%
純資産合計	1170	1533	31.0%
負債・純資産合計	1472	1843	25.2%

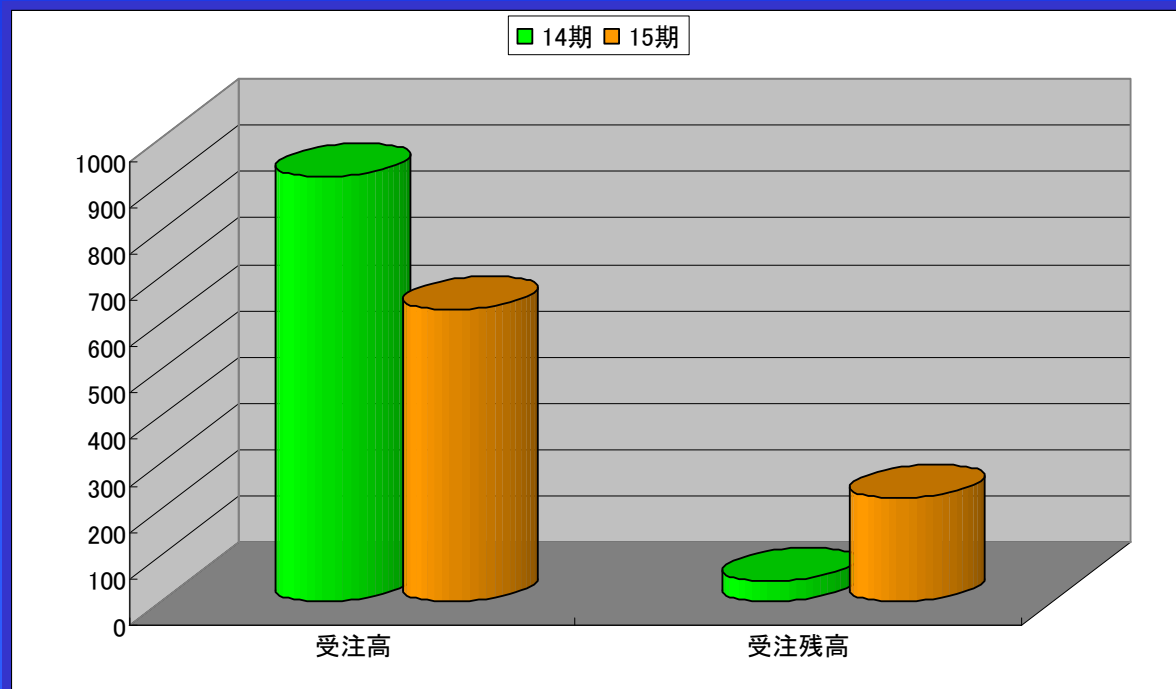


単位:百万円(増減率も百万単位での率)

受注推移(14期vs.15期)

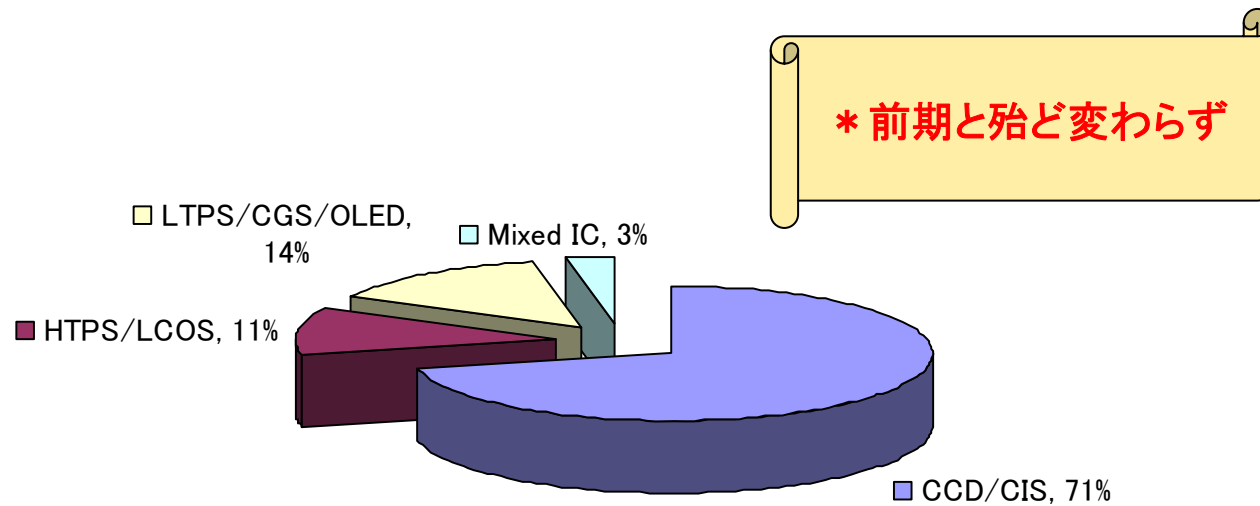
適正な受注残で16期がスタート

	14期	15期	増減率
受注高	913	629	-31.1%
受注残高	44	221	402.3%



累積出荷割合(2008.7)

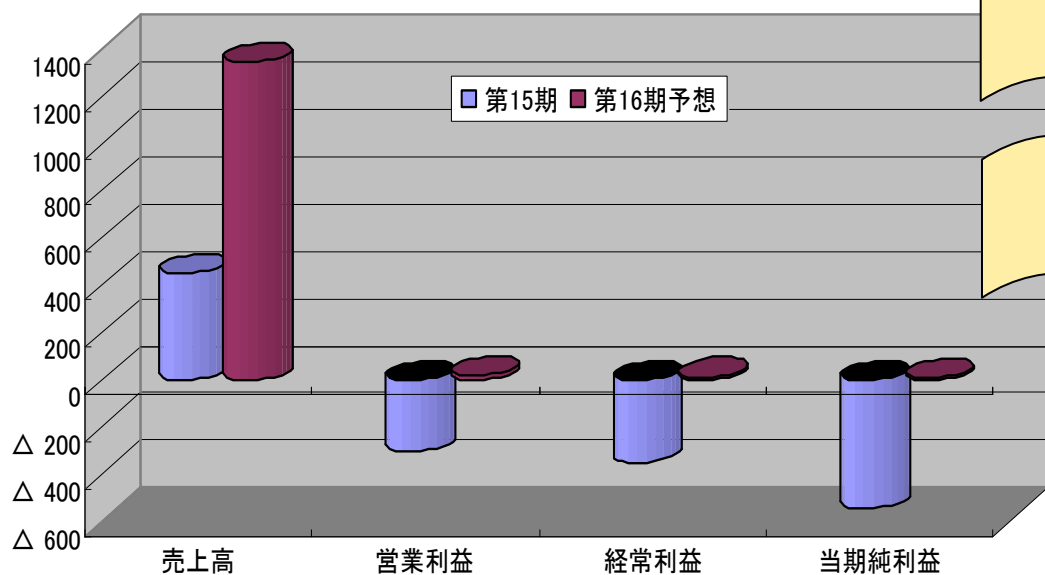
累積出荷割合



第16期 業績予想

(2008年8月1日～2009年7月31日)

第16期業績予想 (P/L)



增收増益

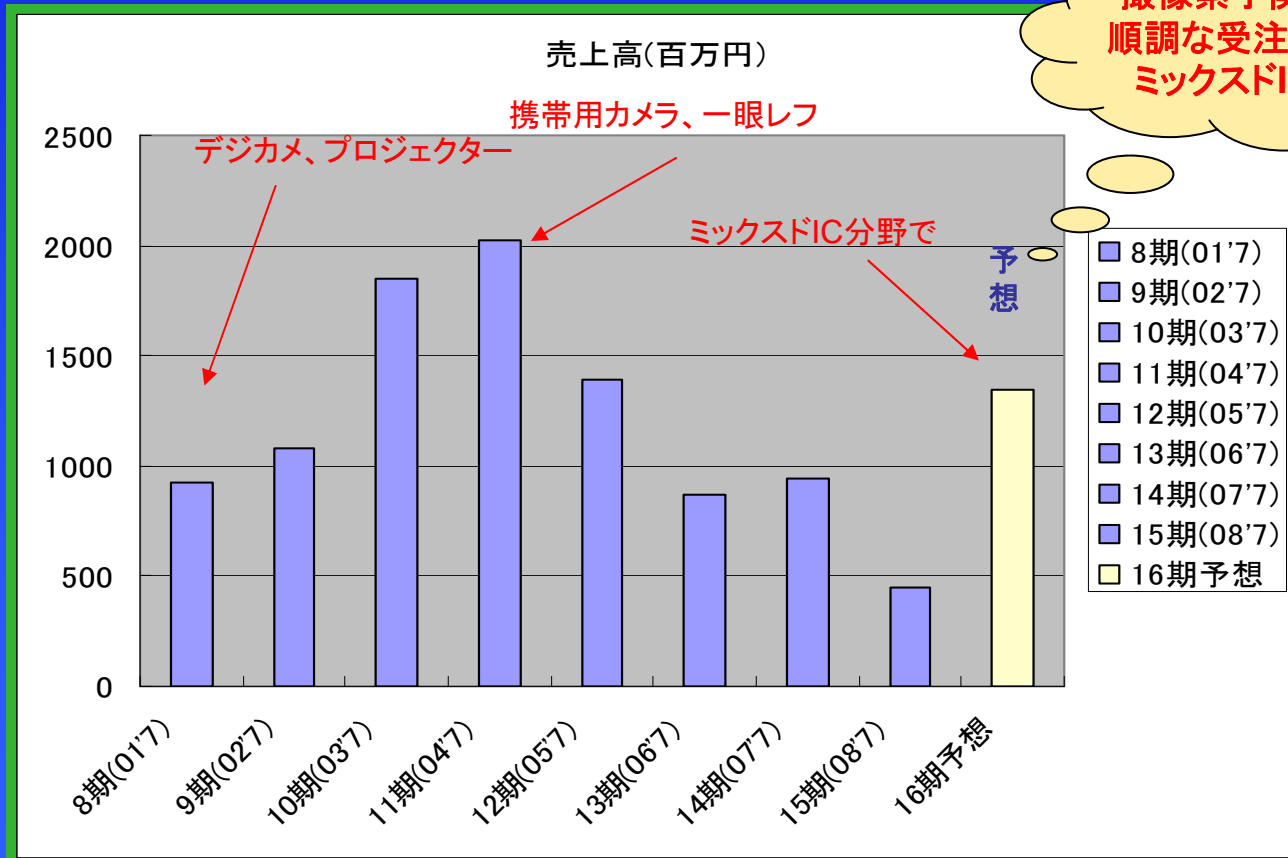
黒字化

単位:百万円

	第15期	第16期予想	増減率
売上高	452	1344	197.2%
営業利益	△ 303	17	—
経常利益	△ 350	12	—
当期純利益	△ 546	11	—

注：当社が独自に予測したものであり、リスクや不確定な要素を含んでおります。
従いまして、見通しの達成を保証するものではありません。

業績推移

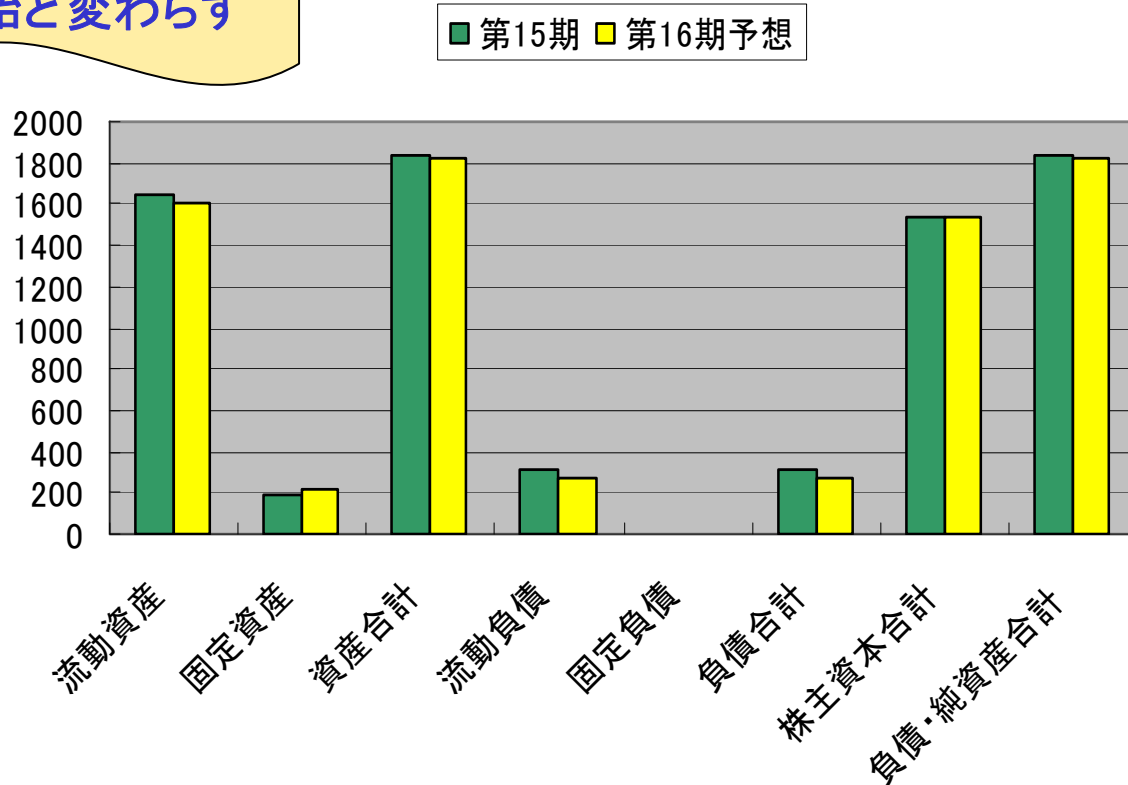


撮像素子関係は、
順調な受注スタート、
ミックスドIC次第

第16期業績予想 (B/S)

殆ど変わらず

項目	第15期	第16期 予想	増減率
流動資産	1647	1609	-2.3%
固定資産	195	211	8.2%
資産合計	1843	1820	-1.2%
流動負債	309	275	-11.0%
固定負債	0	0	—
負債合計	309	275	-11.0%
純資産 合計	1533	1545	0.2 %
負債・純 資産合計	1843	1820	-1.2%



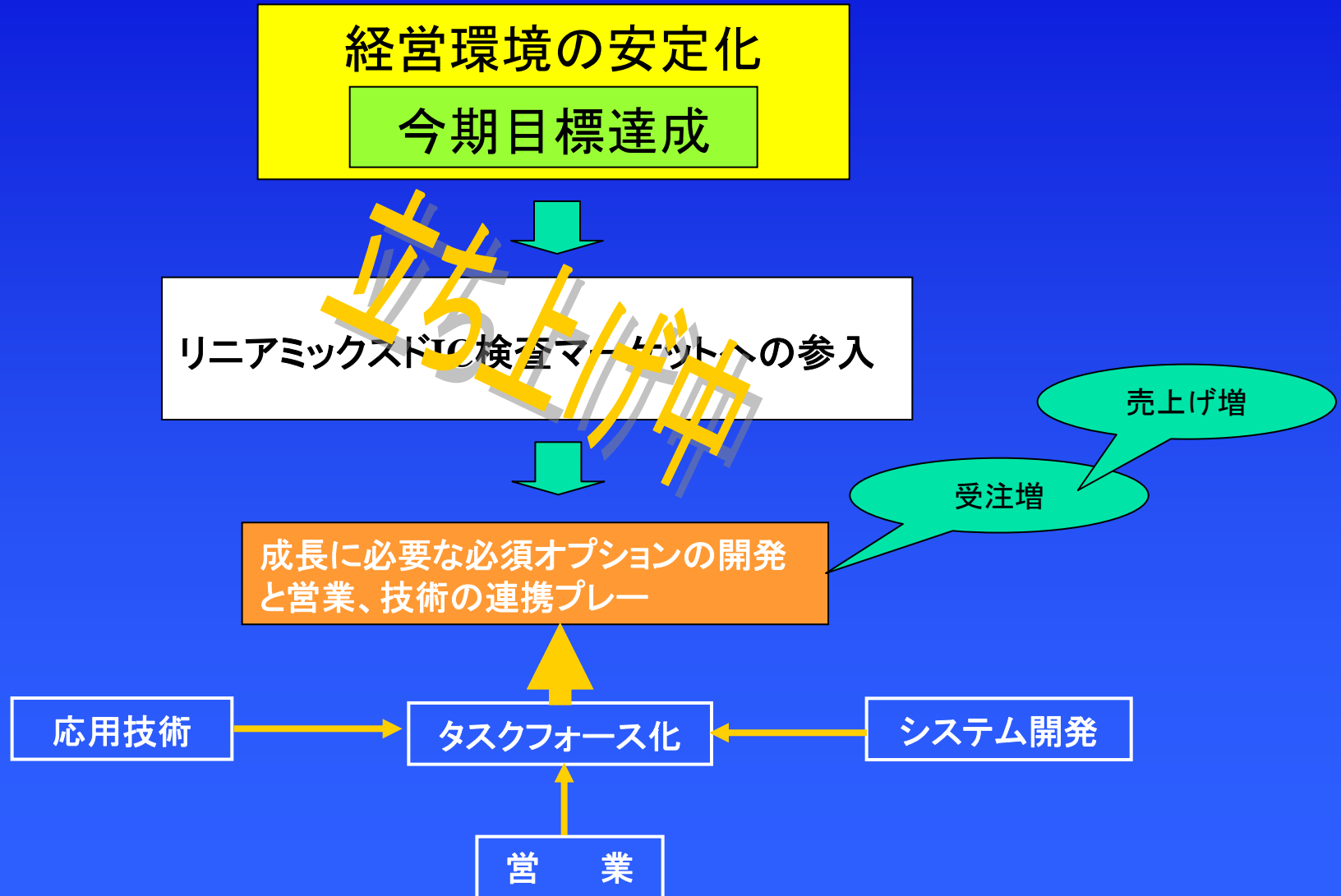
単位:百万円

注: 新株予約券の行使による増加は、予想から排除しています。
当社が独自に予測したものであり、リスクや不確定な要素を含んで
おります。従いまして、見通しの達成を保証するものではありません。

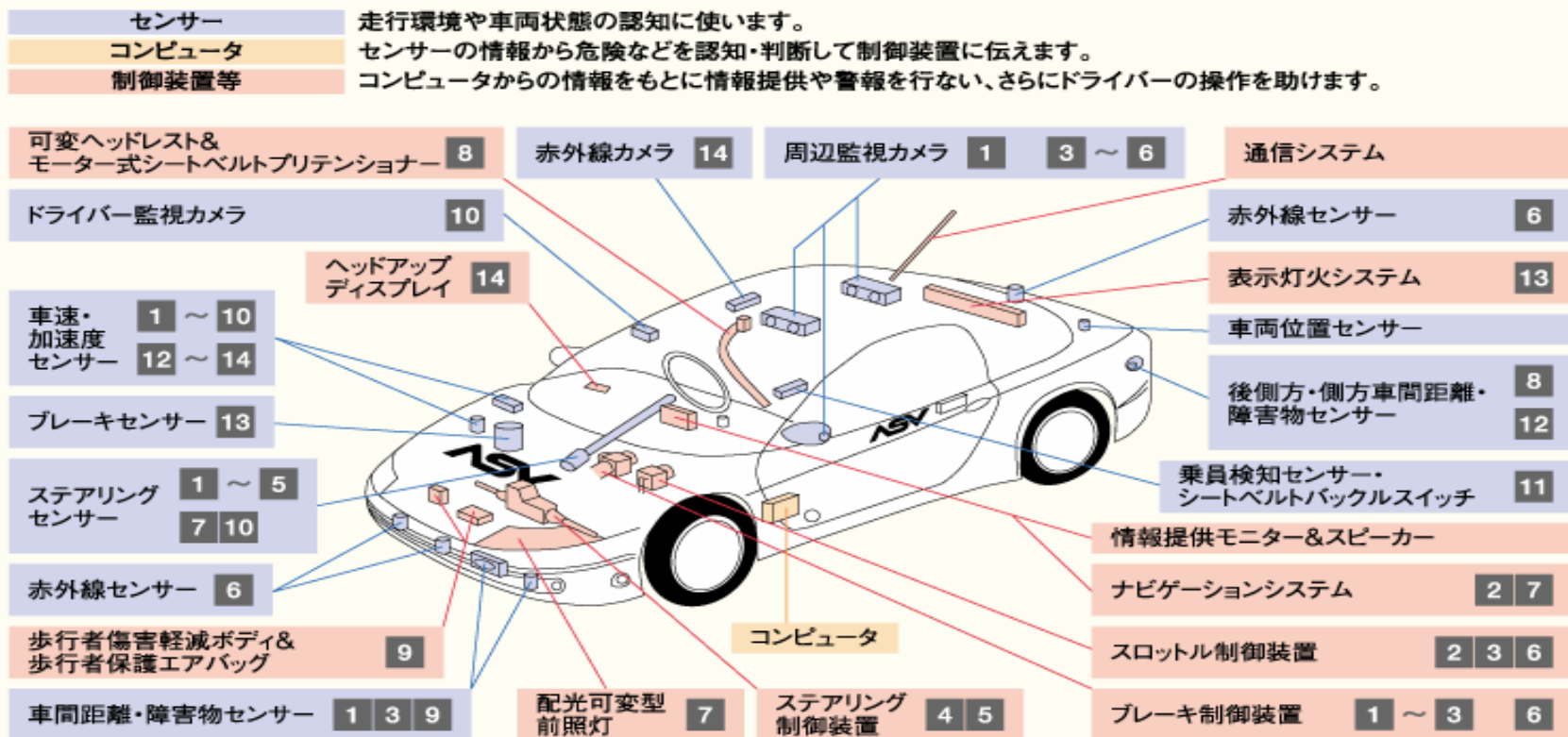
第16期リニアアミックスドIC検査装置営業計画



会社の経営環境から



アナログ・ミックスド・シグナルIC市場 (進む車の電子化)



2008/10/29

IS（イメージセンサ）推進部
会社説明会資料

I S推進部とは？

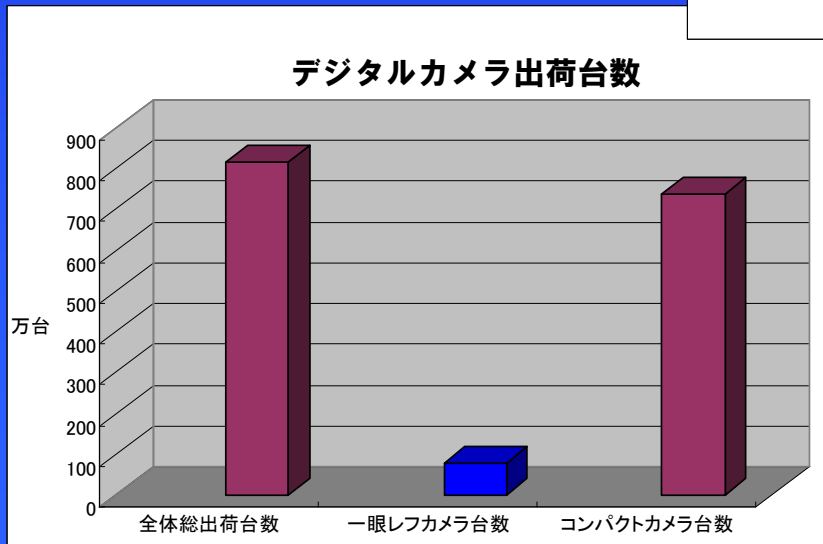
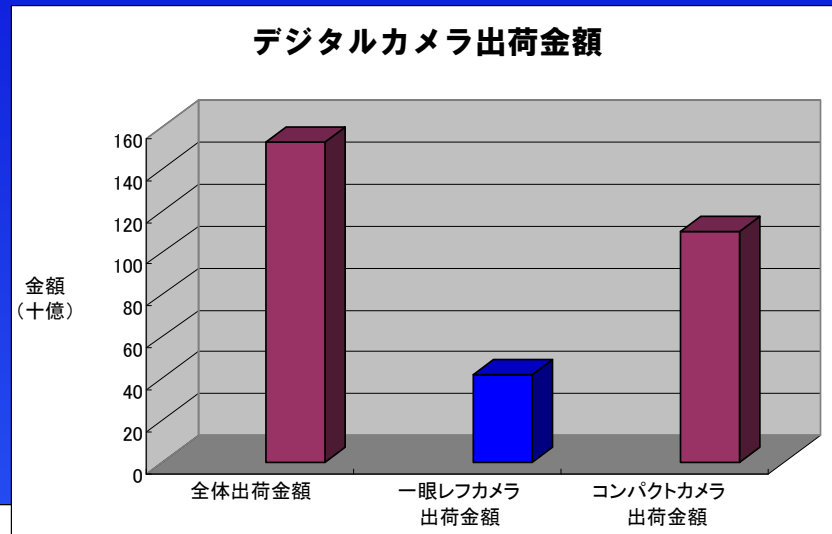
組織の効率化(選択と集中)

主力分野であるイメージセンサーとディスプレイの従来のテスト事業に特化したプロジェクト・チームとて、効率化を図った。

営業部と分離したため、営業部は新規分野のアナログ・ミックスド・シグナル・テスト事業に集中できる。

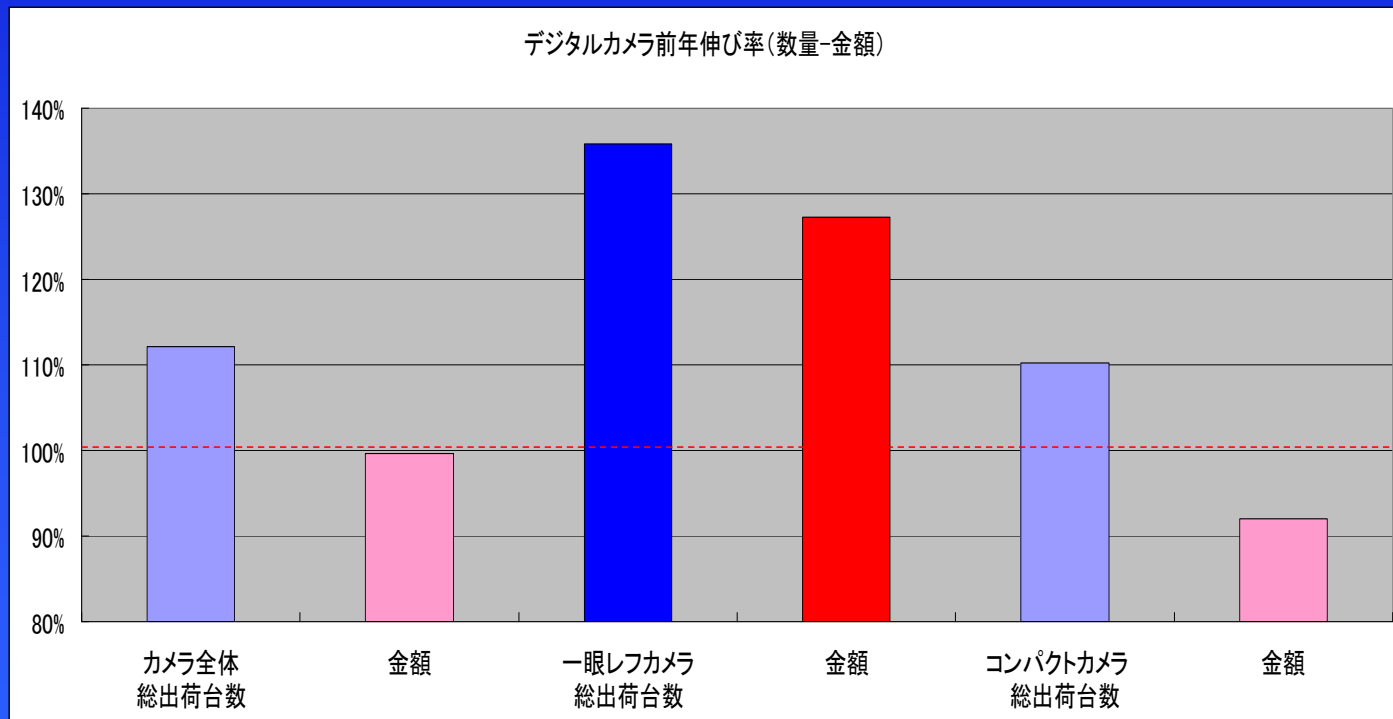
デジタルカメラ種類別比率（2008年/7月度）

一眼レフカメラは、台数は少ないものの金額が大きく利益率が高いため生産拡大となりました



出典：カメラ映像機器会（CIPA）

DSC (デジタル・スチル・カメラ) 前年同月比 (2007年7月期 v s 2008年7月期) 伸び率推移

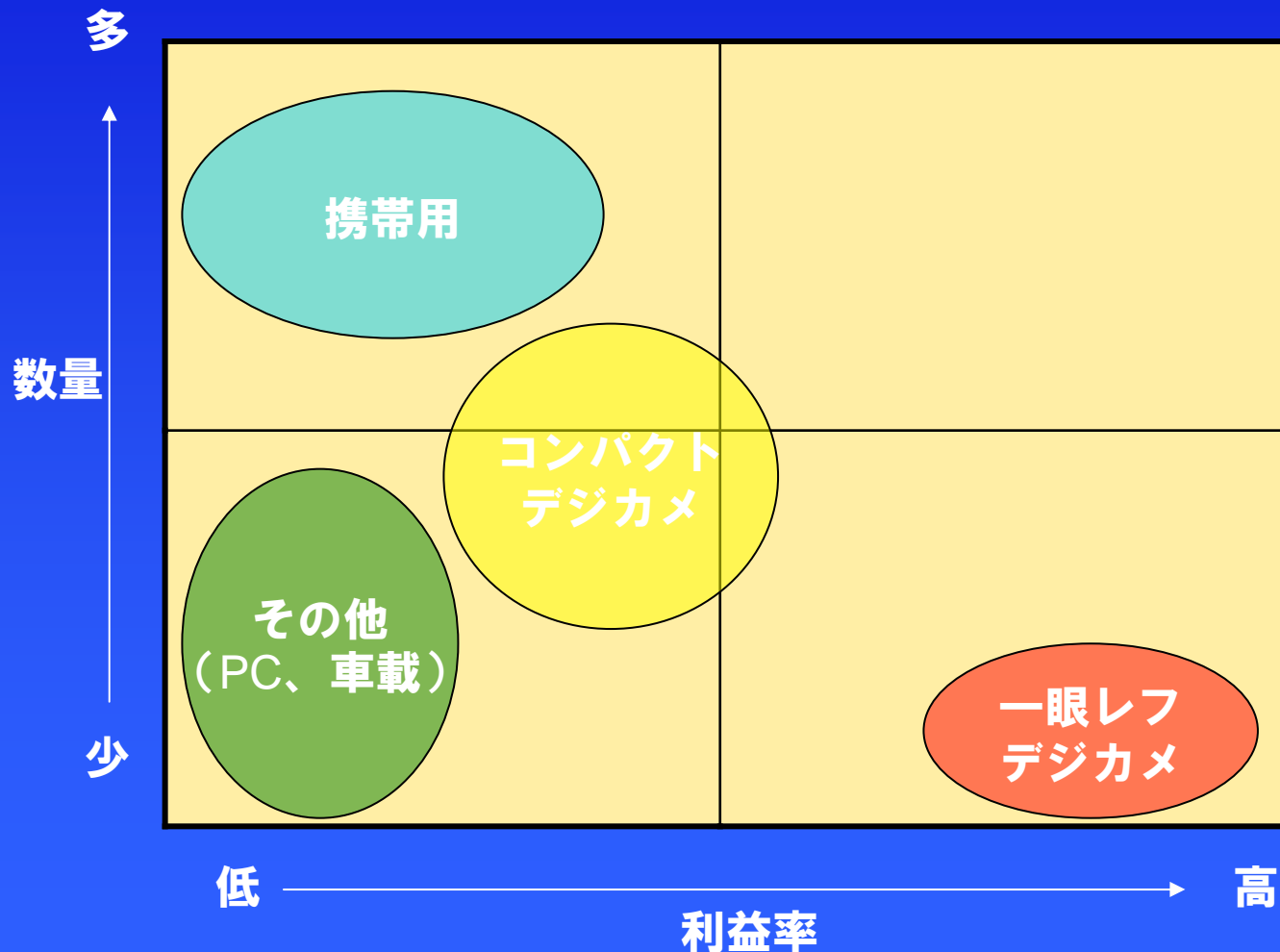


コンパクト機は頭打ち状態。一眼レフは成長基調

イメージセンサ用デバイス市場の変化（続き）

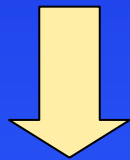
CMOSイメージセンサの各社戦略

変化への対応



イメージセンサ用デバイス市場の 技術的变化

CCD・・・>CMOSイメージセンサへの
移行が顕著。



デジタル化対応
多画素化対応
高速化対応
動画対応
低ノイズ対応（高画質）
更なる低テストコスト対応

リスクについて

本資料に記載されております当社の将来の業績に関わる見通しにつきましては、現時点で入手可能な情報に基づき当社が独自に予測したものであり、リスクや不確定な要素を含んでおります。従いまして、見通しの達成を保証するものではありません。

当社の内部要因や、当社を取り巻く事業環境の変化等の外部要因が直接または間接的に当社の業績に影響を与え、本資料に記載した見通しが変わる可能性があります。

この将来数値に全面的に依拠して投資判断を行うことは差し控えていただきますようお願い申し上げます。

■ 終了